

## 「『jisho』 誕生秘話」について

愉快的な天気のお学期を名古屋の南山大学で過ごして帰国したばかりの2004年の冬、スウェーデンの寒い吹雪の夜、地下鉄に乗りながら電子辞書を使って日本語を勉強していました。すると、いきなりパキッと音がして、キーボードと画面を繋ぐケーブルが凍って割れてしまい、長く愛用した電子辞書が使えなくなりました。それが日本語学習者向け和英辞典のJisho.orgを作ることになったきっかけです。当時プログラミングも勉強していて、電子辞書並みの使い良さをウェブ上でも再現したいと思い、やがて今となっては20年にもなる終わりのない旅に出ることになったのです。Jisho.orgを設計するときには自分に「辞書って何だろう」と常に聞いています。紙の辞書は主に単語や漢字のリストに過ぎないけれども、デジタルのリソースとしては「ページ」という概念がそもそも違います。



Kim AHLSTRÖM-san (アメリカ)

jisho



Draw



部  
Radicals



Voice

「『jisho』 誕生秘話」について



奥様の美和さん、愛犬のナコくんといつも一緒！

## 「『jisho』 誕生秘話」について

例えば、紙辞書は数年ごとに改訂されるので、誤りの修正や新語の追加には時間がかかります。逆にデジタル辞書である Jisho.org は、JMdict というプロジェクトから毎日新しい辞書のデータを読み込んで「ページ」を更新しています。

紙辞書のように「ページ」の物理的な制限がないため、大きめのフォントや空間を広げてより読みやすいインターフェースが作れる上、インタラクティブな要素も使えます。普通の辞書では「単語を調べたい」とか「漢字を調べたい」とか、調べる前に知りたい情報の詳細をある程度選定しないとはいけません。ただ、デジタルのだと、単語や漢字や例文を一括に調べることができ、選定することがないため、調べる段階に入るのが早いです。

【すっきりした読みやすいインターフェース】・漢字を読みやすく、フォントを大きめにする・品詞などを短縮しない【統合検索】・見出しのタイプを選定せず、一括で単語・漢字・例文を検索できる・ローマ字、かな、漢字、英語どれでも検索できる・日本語の文章で検索する場合、自動的に単語を区切って表示する・ワイルドカードで検索を広げられる・ハッシュタグで検索を絞れる・漢字を手書きで検索できる・漢字の部首で絞って検索できる

<https://jisho.org/>

The screenshot shows the Jisho.org website interface. At the top, there are navigation links for Forum, About, Theme, and Login/Sign up. The main search bar contains the word '仲間' (nakama). Below the search bar, the results are organized into sections: 'Words' (19 found), 'Kanji' (2 found), and 'Sentences' (80 found). The 'Words' section lists '仲間' (nakama) as a noun with the meaning 'companion; fellow; friend; mate; comrade; partner; colleague; coworker; associate'. It includes an example sentence: '田中さんは父のつり仲間の一人だ。' (Mr. Tanaka is one of my father's fishing companions.) and a 'Play audio' button. The 'Kanji' section lists '仲' (nakama) and '間' (ima). '仲' is defined as 'go-between, relationship' with the kunyomi 'なつか' and onyomi 'チュウ'. '間' is defined as 'interval, space' with the kunyomi 'あいだ, ま, あい' and onyomi 'カン, ケン'. The 'Sentences' section shows a list of 80 sentences, with the first one being 'samurai's attendant; footman'.

## 「『jisho』 誕生秘話」について

さらに、日本語では文章の中でスペースを使わないため、単語がどこから始まりどこで終わるのかを見極めるのが大変です。区切りを間違えると全然違う単語を調べることになってしまうこともあります。Jisho.org では文章を丸ごと検索することができ、検索結果には単語がそれぞれ区切って表示されます。Jisho.org では上記の紙とデジタルの違いを考え、単語リストの辞書をオンラインで再現するのではなく、オープンデータの豊富さを活用し、デジタルならではの可能性を生かした「日本語を解説する」というサイトにしたいと思っています。



必要性を理解し探求する精神は、開発者魂として見習いたいです。  
日本語を学習しているみなさまは、ぜひ活用してみてください！

2024年11月29日 更新

カシオ計算機株式会社 EdTech事業部 商品戦略室 小川宗之

**Boost Your Curiosity**

AI時代の辞書と言語の先生（Kim-sanよりみなさまへ）

最近話題になっているLLM(Large Language Model; 大規模言語モデル)のAIは本来の日本語学習の景色を画期的に塗り替えて辞書と先生を不必要にさせると思いませんか？

現代の生徒さんにとってChatGPTなどを使うのは当たり前のことになっているようですが、言語学習に使う際はよく注意を払うことが重要です。簡単な質問でも罣があります。

まず、返事が浅いです。「What's dinner in Japanese?」をChatGPTに聞いたら、「夕食」と「晩ごはん」の説明を返してくるが、他にも「dinner」に当たる単語もあります。この返事は初心者には十分かもしれませんが、徹底的な返事ではないので、中級者や豊富な語彙力を目指す学習者には相応しくないと思っています。

次に、誤った情報を堂々と告げます。英語ではない母国語で日本語を学んでいる学生は少なくありませんが、英語以外の言語ではLLMは学力が欠けています。私の母国語スウェーデン語で同じ「dinner」の質問を聞いたら、「晩ごはん」の説明に誤りが入ってしまっています。自分がまだ少しも把握していないことを聞くと、答えに誤りが入っているかどうかを見きわめる術がありません。

簡単にいうと、LLMは大量のデータから「前の単語の次にはこの単語が統計的に高い確率で出てくる」ということを学んで、その統計的な確率からユーザーの質問に返事を生成するにすぎないのです。事の実態を把握しているわけではありません。

ここで、辞書や先生が今の時代に呼応します。言葉のエキスパートが培った深い知識を土台に作り出される辞書は、言葉の全貌を見せてくれます。何年もかけて教える力を磨いた先生は、言語の繊細な感覚を用い、学習者のレベルに応じた適切な言葉の使い方を教えてくれます。

辞書で「dinner」を調べると、多数の単語が並べられ、しばしば例文もあって、言葉の豊富なイメージを得られます。そして、先生に「dinner」とは？と聞いたら、どの単語がどの場面に合うかとか、他の言い方など、言葉の多彩と面白さを明かしてくれます。